

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定) 実施結果

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざし、系統性のある小・中・高一貫した教育課程の編成と学ぶ楽しさを実感し、主体的な活動を引き出す授業づくりに取り組む。	・小中高一貫した教育内容の整備に向け、各学部学年の指導内容を整理・確認し、学部間で共通理解を図る。	・系統性のある教育課程の編成を最終目的として、そのために達成すべきことを認識しながら進める。 ・各学部の教育内容について、社会とのつながりを視点に確認する。	・各学部学年の指導内容を整理・確認し、学部相互で共通理解が図れたか。 ・系統性ある教育課程に向け達成度はどのくらいか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・児童・生徒個々の個性を尊重し、教育的ニーズに適切に把握し、生活年齢、発達段階に合った指導・支援を組織的に行う。	・児童・生徒のニーズを把握するための客観的指標を活用し、個別教育計画に反映しその有効性と課題を検証する。	・児童・生徒の教育的ニーズに即し、アセスメントを活用した教育実践を行う。 ・チームとして連携協力し、個別教育計画のRPDCAサイクルの実効性を高める。	・客観的指標を活用することができたか。 ・それぞれの取組が個別教育計画に対して有効に反映されたか。					
3	進路指導・支援	・一人ひとりの将来の自立と社会参加のあり方を見据え、発達段階とライフステージに沿った進路指導・支援を組織的に行う。	・小中高それぞれで適切な進路に関する情報提供に努め、個別最適な進路指導に寄与する。	・児童・生徒自身が主体的に選択し、自己決定することに結び付けられる有用な情報提供に努める。	・高等部だけではなく、小学部、中学部においても効果的な進路支援に結びつく情報提供ができたか。					
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向けて、地域におけるセンター的機能を継続するとともに、コミュニティ・スクールとして地域との協働による教育活動を展開する交流及び共同学習を通じた児童・生徒の相互理解を図る。	・本校のセンター的機能をより実際的なものにするために、学校コンサルテーションを具現化していくための方策について検討する。	・学校運営協議会との連携をはじめとして、地域の様々な資源を活用した有効性のある教育活動及び積極的発信を行う。 ・学校コンサルテーションの視点を持ち、地域のエンバウメントにつながるよう継続した支援を行う。	・地域資源の有効活用や学校コンサルテーションを具現化するための方策について検討を進めることができたか。					
5	学校管理 学校運営	・児童・生徒が安心、安全に過ごせる教育環境の整備と危機管理体制を構築する。 ・事故、不祥事のない学校であるよう、管理・運営を行う。	・施設の老朽化等に伴う危険箇所を把握し、機能改善の優先順位を検討し、環境整備等を実践していく。 ・いかなる場面にも組織的に適切な対応ができるよう、研修の実施やマニュアルの周知等を図る。	・担当部署だけが担うという意識ではなく、学校のすべての職員が安全管理、危機管理の意識をもって行動する。 ・実際場面を想定しながら研修等を実施し、改善点について随時アップデートしていく。	・教職員一人ひとりが安全管理や危機管理の意識をもって日々の取組を行えたか。					